

Ⅲ. 甲土地は、被相続人Aの所有していたものであり、Aの相続人には、BとCとが存在する。この前提の下に、次の問(1)・(2)に答えよ(なお、各問は相互に関連しないものとする)。

(1) BとCとの遺産分割協議によって、甲は、Bが単独で所有することとなり、B名義の登記もなされた。その後Bは、Dとの間で、甲の売買契約を締結した。その売買契約によれば、契約の日から1ヵ月後にDが代金を支払い、Bが引き渡しおよび移転登記申請手続に協力をするようになっていた。ところが、Dにはもともと売買代金全額を支払うための資力がなく、Dは、履行期になっても売買代金の一部を支払ったのみで、Bから甲の引き渡しを受けるとともに、移転登記手続を経た。そしてDは、甲を直ちにEに転売した。この場合において、Bが甲を取り戻せるかについて論ぜよ。解答は、茶色の解答用紙(その2)の表面にしるせ。

(2) 甲は、BとともにAを相続したCが単独で所有することとなった。それにもかかわらず、Bは、虚偽の書類を用いて甲をB名義に登記し、さらにFに売却して引き渡し、移転登記も済ませた。この場合において、CがFに対して登記の抹消を求め、甲の返還を請求できるかにつき、①CがBとの遺産分割協議によって甲を取得したときと、②Aの「甲をCに相続させる」という遺言があったときとに分けて論ぜよ。解答は、茶色の解答用紙(その2)の裏面にしるせ。

2005年度

民事法問題用紙

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙は黒インクのボールペンまたは万年筆で記入してください。黒インクのボールペンまたは万年筆を忘れた者は監督に申し出てください。(黒鉛筆・シャープペンシルなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は4ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験番号の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

I. 次の文を読み、下記の間(1)・(2)に答えよ。解答は、紺色の解答用紙(その1)の表面にしるせ。

A株式会社では、設立時からの代表取締役であるBの専横ぶりが目に余るようになり、2004年9月の取締役会(以下、「本件取締役会」という)において、Bの代表取締役解任に関する議案が他の取締役から提出された。この議案は、本件取締役会の招集通知には記載されていなかったが、出席した取締役の賛成多数により可決された。

なお、A会社の定款には、取締役会に関する事項は、別途定める取締役会規程による旨の規定があり、A会社の取締役会規程には、招集通知の書面に会議の目的事項を記載すべき旨が規定されている。

(1) 本件取締役会において、Bは議決権を行使できるか、理由を付して論ぜよ。

(2) 本件取締役会におけるBの代表取締役解任決議は有効か、理由を付して論ぜよ。

II. 受訴裁判所が、口頭弁論において、次の(1)・(2)のようにすることは認められるか、それぞれ論ぜよ。解答は、紺色の解答用紙(その1)の裏面にしるせ。

(1) 原告に一時的に退席してもらって、被告とのみやりとりを行うこと。

(2) 傍聴人に一時的に退席してもらって、審理を行うこと。